

20年度 決算説明資料

2021年4月
株式会社タダノ

Tadano Ltd.

<注意事項>

- 本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいており、リスクと不確実性を含んでおります。
- 需要、シェアの取り扱いについて：需要台数は当社推計にて10台単位に四捨五入、シェアは小数点以下を四捨五入しております。また、需要にはロシア国産、中国国産の中国市場向けは含んでおりません。
- 資料内の略称について：TCはトラッククレーン、RTはラフテレーンクレーン、ATはオールテレーンクレーンを表します。
- 2019年7月31日にDemag事業の買収が完了いたしました。本資料における19年度Demag事業の取扱いは以下の通りです。
 - ・19年度連結財務諸表：貸借対照表（12月末）、損益計算書（8～12月）を含んでおります。
 - ※PPAによる影響を加味し遡及修正しております。PPAは、Purchase Price Allocationの略で、資産・負債を公正価値評価/配分する手続きです。
 - ・需要数値：クローラクレーンは含んでおりません。
 - ・シェア：Demag製品は1～12月販売台数を含んでおります。

- ✓ Demag事業連結も売上は約18%減、販売機種構成の変化等により、利益は大幅減少。10年度以来10年ぶりの営業損失。

(単位：百万円)

	19年度		20年度		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	227,949	100%	186,040	100%	-18.4%
営業利益	13,949	6.1%	-4,196	-2.3%	-
経常利益	13,791	6.1%	-4,683	-2.5%	-
親会社株主当期純利益	6,433	2.8%	-12,987	-7.0%	-
設備投資額		12,902		5,666	
減価償却費		4,527		5,695	
※設備投資にはリース資産分を含んでおります。					
USD		109.05円		106.82円	
EUR		122.07円		121.81円	

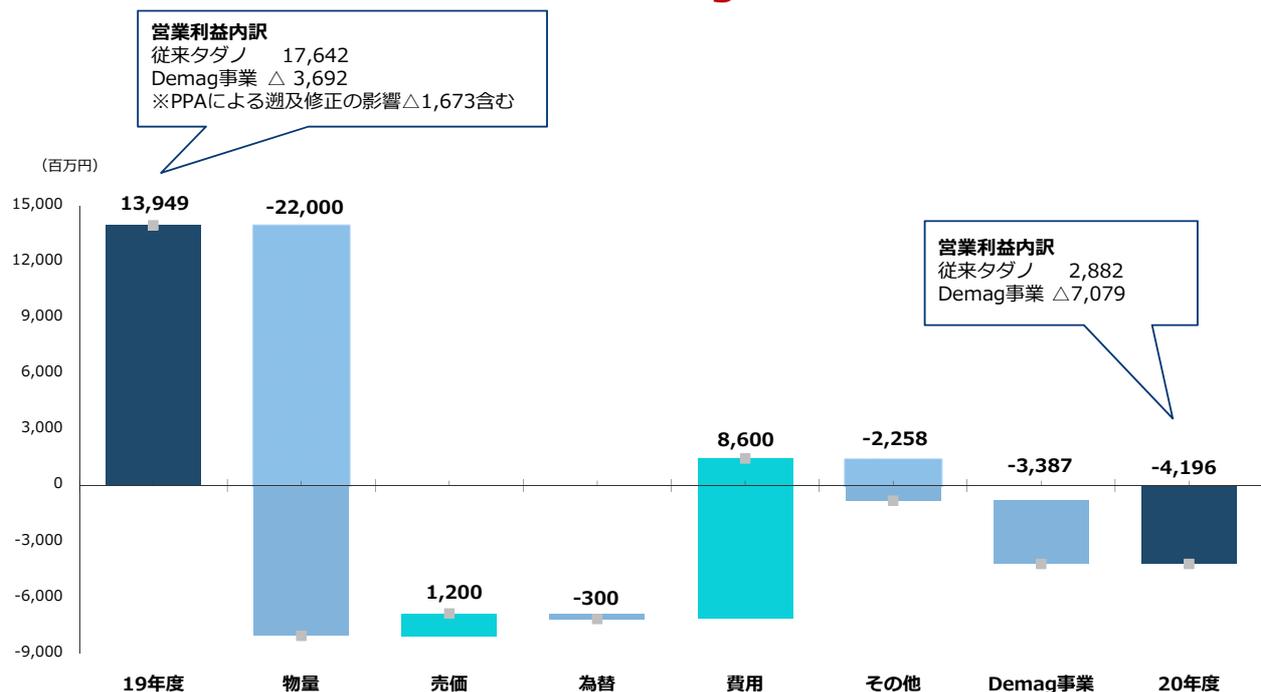
損益計算書

- ✓ 原価率は販売機種構成の変化等により悪化
- ✓ 販管費は経費削減に努めた結果減少
- ✓ 排ガス規制関連損失引当金繰入、欧州事業再生関連費用等を特別損失に計上

(単位：百万円)

	19年度		20年度		比較増減
	金額	比率	金額	比率	
売上高	227,949	100%	186,040	100%	-41,909
売上原価	172,007	75.5%	150,944	81.1%	-21,062
割賦販売利益	-69	-0.0%	55	0.0%	124
売上総利益	55,872	24.5%	35,150	18.9%	-20,722
販管費	41,923	18.4%	39,347	21.1%	-2,575
営業利益	13,949	6.1%	-4,196	-2.3%	-18,146
営業外損益	-158	-0.1%	-486	-0.3%	-328
経常利益	13,791	6.1%	-4,683	-2.5%	-18,474
特別損益	-1,753	-0.8%	-7,674	-4.1%	-5,921
税引前当期純利益	12,038	5.3%	-12,358	-6.6%	-24,396
法人税等	5,683	2.5%	599	0.3%	-5,084
非支配株主当期純利益	-78	-0.0%	29	0.0%	108
親会社株主当期純利益	6,433	2.8%	-12,987	-7.0%	-19,420

✓ 費用は削減するも、物量の減少、Demag事業連結により181億円減少



貸借対照表

✓ 売上債権、たな卸資産はともに減少
✓ コロナ禍長期化への備え（手許資金と有利子負債が増加）

(単位：百万円)

	19年度末	20年度末	比較 増減		19年度末	20年度末	比較 増減
手許資金	57,075	103,110	46,034	仕入債務	40,745	32,043	-8,702
売上債権	63,267	48,774	-14,492	有利子負債	63,035	94,586	31,551
たな卸資産	97,434	82,010	-15,424	その他	49,320	51,885	2,564
その他	9,415	5,254	-4,160	負債計	153,102	178,515	25,413
流動資産計	227,192	239,149	11,956	純資産計	158,158	145,404	-12,754
有形固定資産	68,433	68,046	-386	負債・純資産計	311,260	323,920	12,659
無形固定資産	1,675	1,692	17				
投資その他の資産	13,958	15,031	1,072				
固定資産計	84,067	84,770	703				
資産合計	311,260	323,920	12,659				

	19年度	20年度
売上債権回転期間	88.1日	95.7日
たな卸資産回転期間	135.6日	160.9日
自己資本比率	50.5%	44.5%
ネットD/Eレシオ	0.04倍	-0.06倍
ROA(営業利益ベース)	4.9%	-1.3%
ROE	4.1%	-8.6%

✓ 売上債権とたな卸資産の圧縮に取り組んだ結果、営業CFは増加

(単位：百万円)

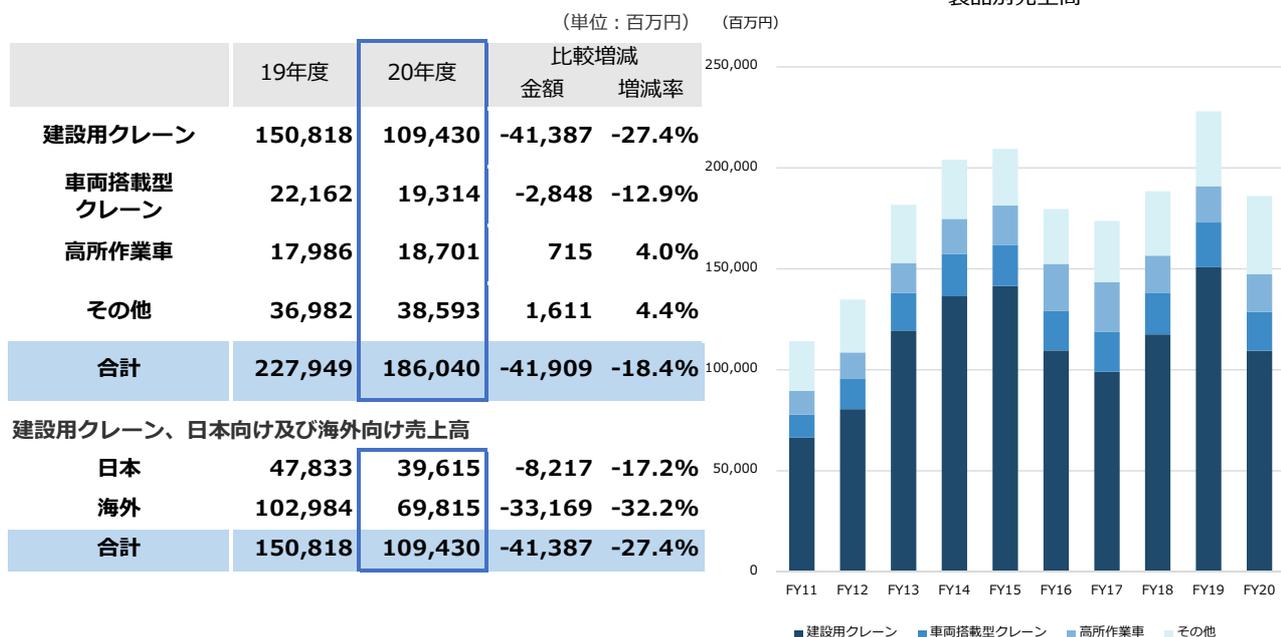
		19年度	20年度	比較 増減
営業CF	税引き前利益	12,038	-12,358	-24,396
	減価償却費	4,527	5,695	1,167
	売上債権増減	-5,196	14,317	19,514
	たな卸資産増減	-4,026	15,539	19,565
	仕入債務増減	-6,762	-7,980	-1,218
	その他	-3,561	5,235	8,797
	合計	-2,982	20,448	23,430
投資CF	合計	-31,543	-3,731	27,811
財務CF	合計	25,954	29,039	3,084
現金及び現金同等物の増減額		-8,755	45,997	54,753

6

製品別売上高

✓ 建設用クレーンと車両搭載型クレーンは減少、高所作業車は増加

製品別売上高



7

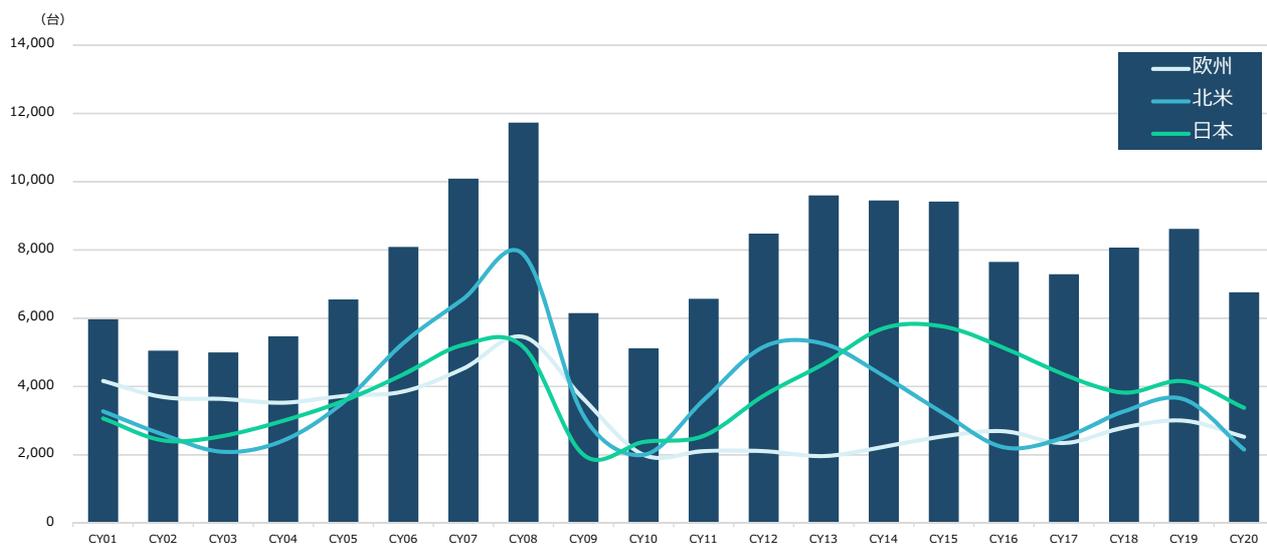
✓ Demag事業連結により欧州は増加、それ以外全ての地域で売上は減少

	19年度	20年度	(単位：百万円)	
			比較増減 金額	増減率
欧州	24,363	27,631	3,267	13.4%
北米	54,163	35,001	-19,162	-35.4%
中南米	6,735	3,092	-3,643	-54.1%
アジア	14,401	11,013	-3,387	-23.5%
中東	10,312	5,898	-4,414	-42.8%
その他	13,444	10,126	-3,318	-24.7%
小計（海外計）	123,421	92,763	-30,658	-24.8%
日本	104,527	93,277	-11,250	-10.8%
合計	227,949	186,040	-41,909	-18.4%
海外売上高比率	54.1%	49.9%		



建設用クレーンの世界需要推移 (暦年ベース)

折れ線は各市場の需要ボトムの基準年を1とし、各年の比率推移を表します。
(基準年 北米・欧州：2010年、日本：2009年)



※数値は当社推計（10台単位にて四捨五入）

※ロシア国産は上記に含まず

※CY10以降、中国国産の輸出含む

※中国国産の中国市場向けは上記に含まず。中国市場における中国国産の需要推移は次の通り

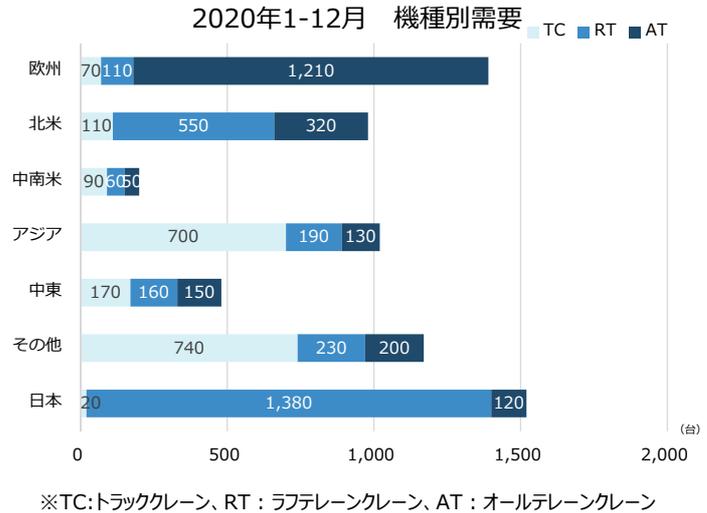
CY12：約2万2千台、CY13：約1万7千台、CY14：約1万4千台、CY15：約9千台、CY16：約9千台、CY17：約2万台、
CY18：約3万2千台、CY19：約4万2千台、CY20：約5万4千台

- ✓ 需要は全ての地域で減少し、合計は約22%減少
- ✓ 世界シェア5%ポイント減少 29%→24%



AC 300-6

	需要			シェア	
	2019年 1-12月	2020年 1-12月	増減率	2019年 1-12月	2020年 1-12月
欧州	1,650台	1,390台	-15.8%	19%	13%
北米	1,650台	980台	-40.6%	35%	31%
中南米	270台	200台	-25.9%	25%	11%
アジア	1,290台	1,020台	-20.9%	13%	9%
中東	650台	480台	-26.2%	20%	20%
その他	1,240台	1,170台	-5.6%	16%	10%
海外計	6,750台	5,240台	-22.4%		
日本	1,870台	1,520台	-18.7%	55%	54%
合計	8,620台	6,760台	-21.6%	29%	24%



日本市場

- ✓ 台数シェア 53%→53%
- ✓ トン数シェア1%ポイント増加 55%→56%

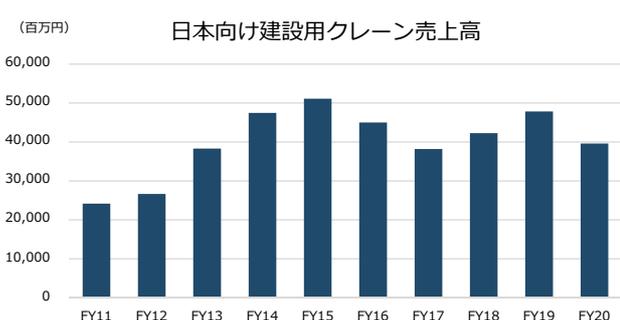
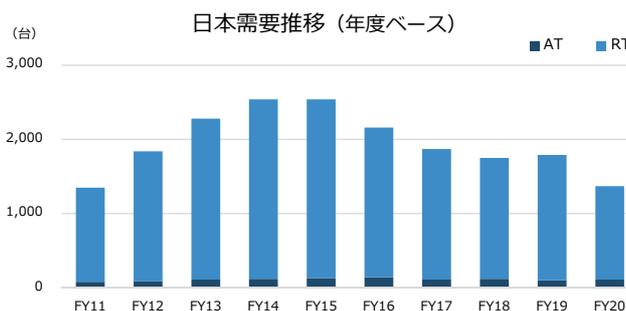
※上記シェアは年度ベース

	19年度	20年度	比較増減	
			金額	増減率
日本	47,833	39,615	-8,217	-17.2%

(単位: 百万円)



GR-1000N



※ AT: オールテレーンクレーン、RT: ラフテレーンクレーン

- ✓ Demag事業連結により売上増加
- ✓ シェア6%ポイント減少 19%→13%

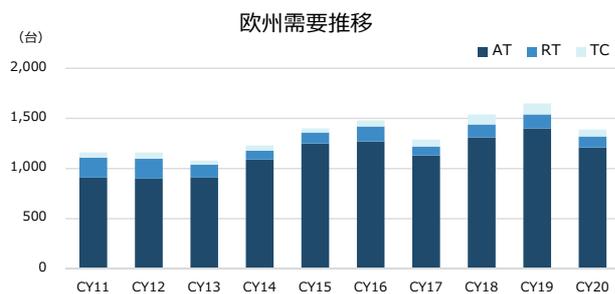
(単位：百万円)

	19年度	20年度	比較増減	
			金額	増減率
欧州	24,363	27,631	3,267	13.4%

※建設用クレーン以外も含む



CC 3800-1



※ AT：オールテレーンクレーン、RT：ラフテレーンクレーン、TC:トラッククレーン

- ✓ RTを中心に需要は大幅減少
- ✓ シェア4%ポイント減少 35%→31%

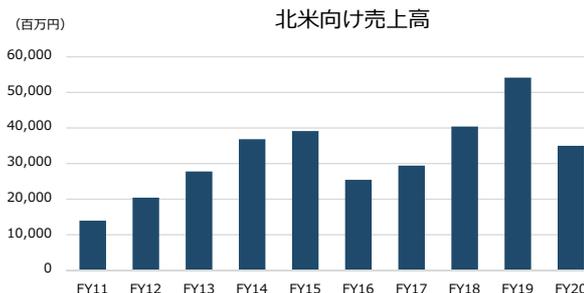
(単位：百万円)

	19年度	20年度	比較増減	
			金額	増減率
北米	54,163	35,001	-19,162	-35.4%

※建設用クレーン以外も含む



GR-1000XLL-4



※ AT：オールテレーンクレーン、RT：ラフテレーンクレーン、TC:トラッククレーン

✓ 建設用クレーンの需要減少により、全ての地域で売上高は減少

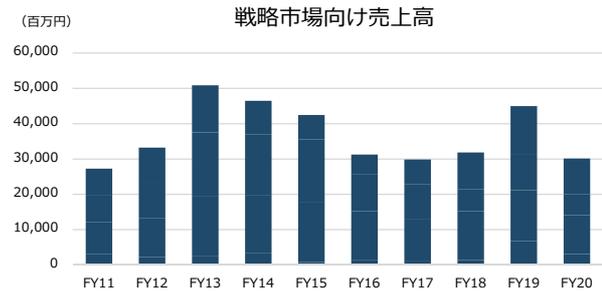
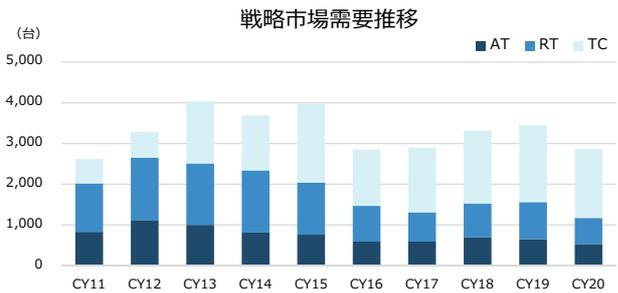
(単位：百万円)

	19年度	20年度	比較増減	
			金額	増減率
中南米	6,735	3,092	-3,643	-54.1%
アジア	14,401	11,013	-3,387	-23.5%
中東	10,312	5,898	-4,414	-42.8%
その他	13,444	10,126	-3,318	-24.7%
合計	44,894	30,131	-14,763	-32.9%



GT-600EL

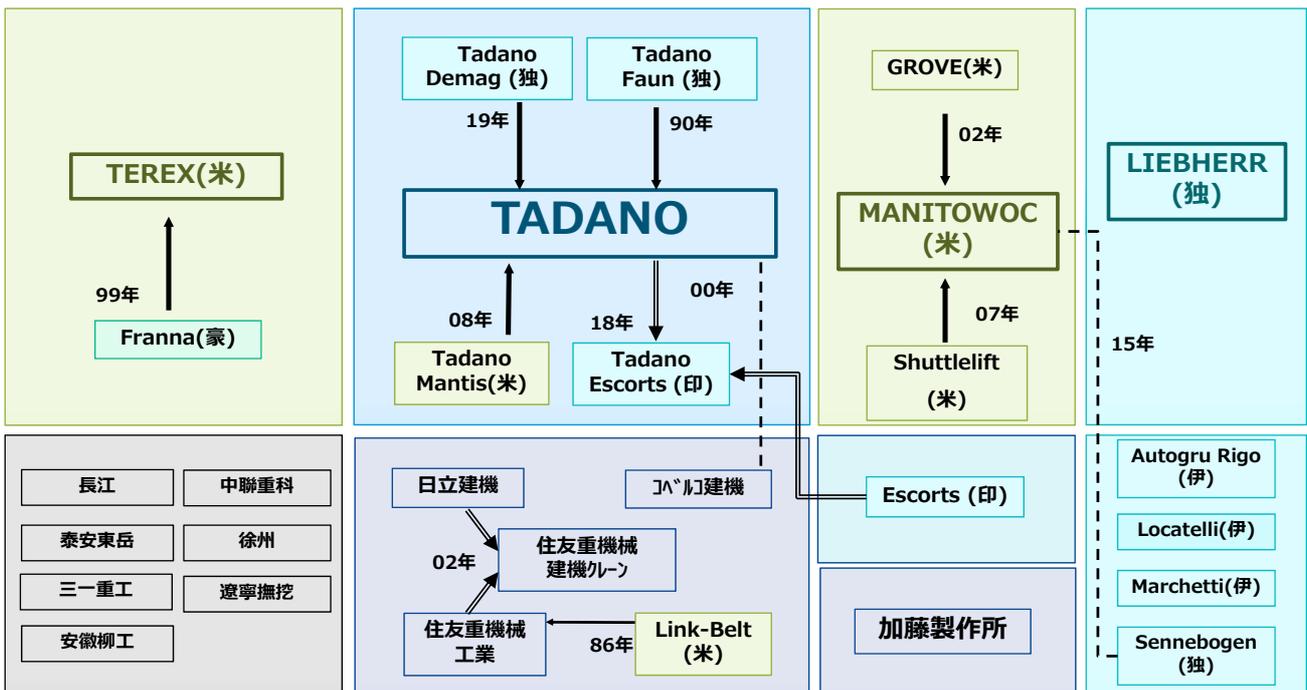
※建設用クレーン以外も含む



※ AT : オールテレーンクレーン、RT : ラフテレーンクレーン、TC : トラッククレーン

※ 戦略市場は日本・欧州・北米を除いた当社独自の市場区分

クレーン業界図(油圧式クレーンメーカー・クローラクレーンメーカー)



徐州=XCMG Xuzhou Construction Machinery Group、
中聯重科 =Zoomlion、三一重工=Sany、安徽柳工=Liugong

* 日本建設機械工業会資料より、当社作成

→ 買収を示す。(数値はその年度)
- - - 提携を示す。(数値はその年度)
⇄ 出資・JVを示す。

車両搭載型クレーン

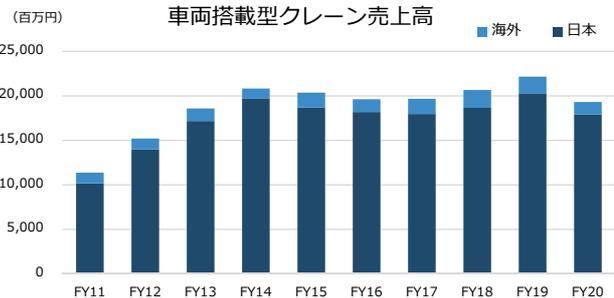
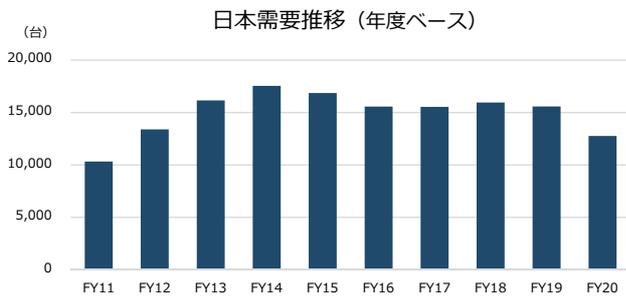
- ✓ 日本シェア 48%→48%
- ✓ 日本売上は、需要減少により約12%減少

(単位：百万円)

	19年度	20年度	比較増減	
			金額	増減率
日本	20,292	17,920	-2,371	-11.7%
海外	1,870	1,393	-476	-25.5%
合計	22,162	19,314	-2,848	-12.9%



ZX360/300シリーズ



高所作業車

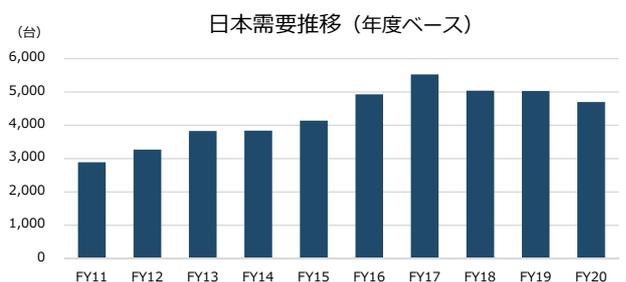
- ✓ 日本シェアは4%ポイント減少 35%→31%
- ✓ 日本売上は需要減少も、高付加価値商品の拡販により増加

(単位：百万円)

	19年度	20年度	比較増減	
			金額	増減率
日本	17,905	18,497	592	3.3%
海外	81	204	122	151.6%
合計	17,986	18,701	715	4.0%



AT-320XTG



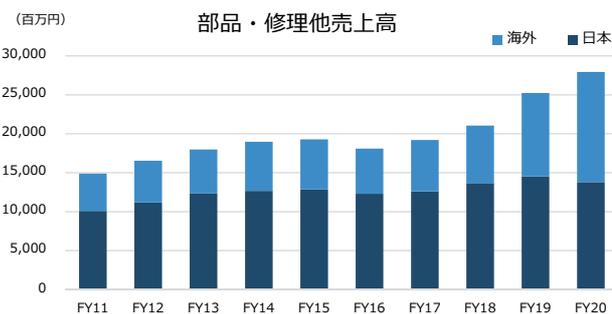
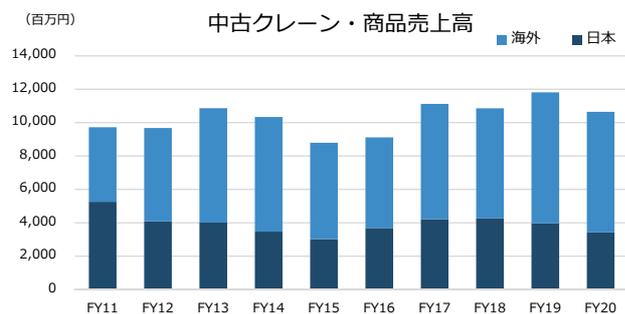
✓ 部品、修理他の売上は増加

(単位：百万円)

	19年度	20年度	比較増減	
			金額	増減率
中古クレーン 商品	11,821	10,649	-1,171	-9.9%
部品・修理他	25,161	27,944	2,782	11.1%
合計	36,982	38,593	1,611	4.4%



門型油圧リフター：TB-1000



(単位：百万円)

	20年度		21年度		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	186,040	100%	215,000	100%	15.6%
営業利益	-4,196	-2.3%	4,200	2.0%	-
経常利益	-4,683	-2.5%	3,400	1.6%	-
親会社株主当期純利益	-12,987	-7.0%	10,500	4.9%	-

※欧州事業再生関連収益として、債務免除益等約100億円を特別利益に見込んでおります。

設備投資額	5,666	6,500
減価償却費	5,695	5,900

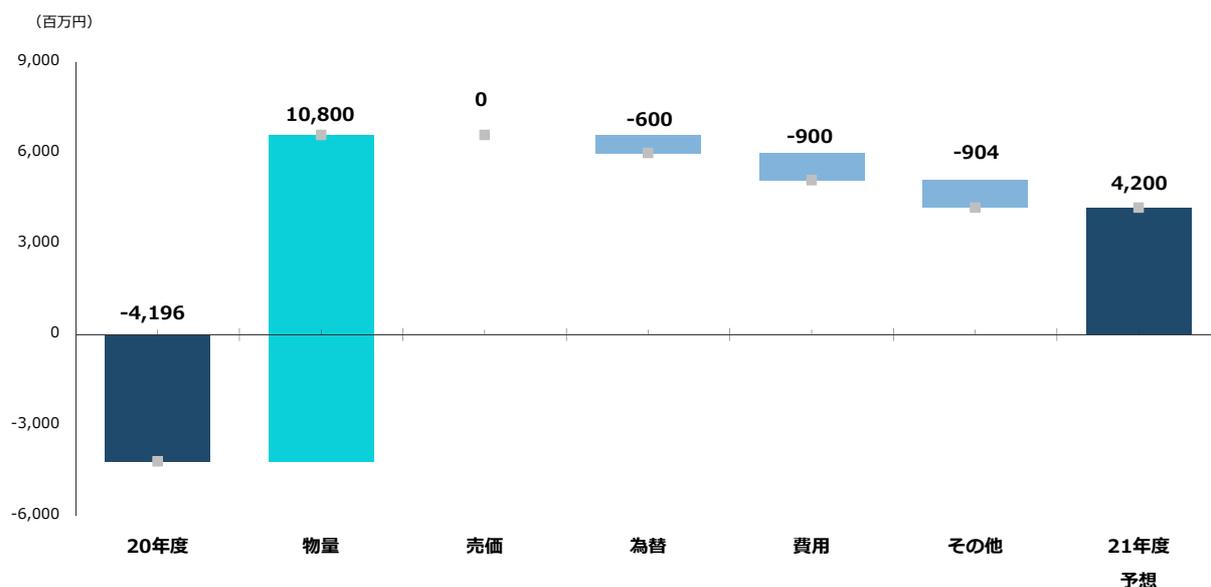
※設備投資にはリース資産分を含んでおります。

USD	106.82円	105.00円
EUR	121.81円	125.00円

1株当たり配当金	中間	0.00円	中間	3.00円
	期末	3.00円	期末	4.00円
	年間	3.00円	年間	7.00円

21年度業績予想（営業利益増減要因）

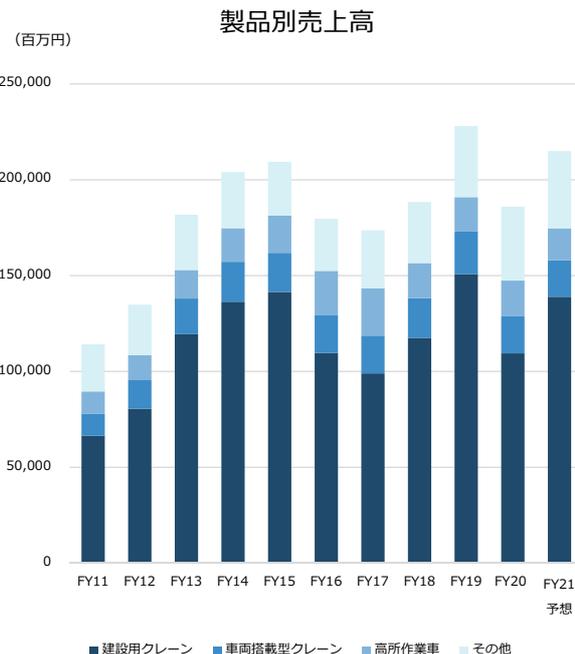
✓ 売上増加等により、営業利益は83億円増加



21年度製品別売上高予想

(単位：百万円)

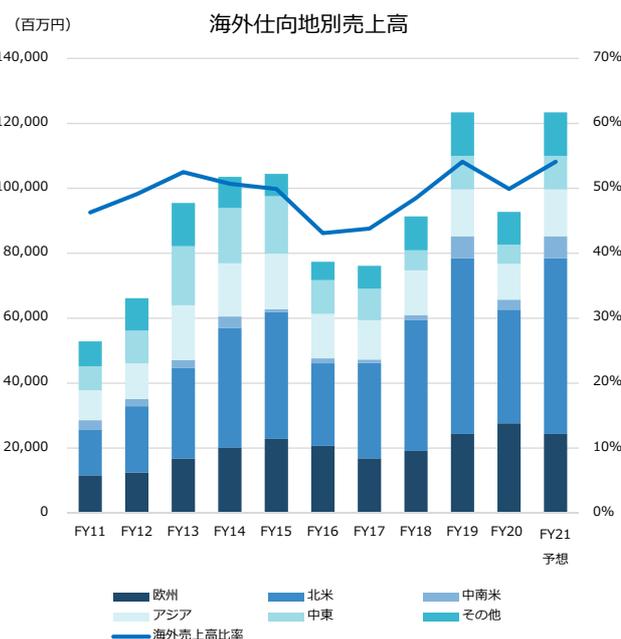
	20年度	21年度 予想	比較増減	
			金額	増減率
建設用クレーン	109,430	139,000	29,570	27.0%
車両搭載型クレーン	19,314	19,000	-314	-1.6%
高所作業車	18,701	16,700	-2,001	-10.7%
その他	38,593	40,300	1,707	4.4%
合計	186,040	215,000	28,960	15.6%
建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高				
日本	39,615	37,700	-1,915	-4.8%
海外	69,815	101,300	31,485	45.1%
合計	109,430	139,000	29,570	27.0%



21年度仕向地別売上高予想

(単位：百万円)

	20年度	21年度 予想	比較増減	
			金額	増減率
欧州	27,631	33,300	5,669	20.5%
北米	35,001	46,100	11,099	31.7%
中南米	3,092	3,600	508	16.4%
アジア	11,013	14,500	3,487	31.7%
中東	5,898	10,200	4,302	72.9%
その他	10,126	18,000	7,874	77.8%
小計 (海外計)	92,763	125,700	32,937	35.5%
日本	93,277	89,300	-3,977	-4.3%
合計	186,040	215,000	28,960	15.6%
海外売上高比率	49.9%	58.5%		



※上のグラフには日本を含んでおりません。
※その他は、オセアニア、アフリカ、CISを含んでおります。

✓ 「タダノまなびの森」初の森林整備活動

香川県のフォレストマッチング制度で活動開始した「タダノまなびの森」で、初めてとなる環境保全活動を実施。多数のタダノグループ社員やご家族が参加した。今回は将来の植林を見据えた整備活動を中心に、香川県環境森林部の協力を得て、参加者が森について理解を深める環境学習も実施した。

タダノまなびの森：2020年から香川県さぬき市の保有林を活用して、環境保全の大切さを学ぶ教育の場や交流の生まれる場として、協働の森づくりに取り組んでいる。



森林整備の様子

✓ 親子工場見学会を初めてオンラインで開催

毎年夏休みに志度工場親子工場見学会を開催していたが、今回は春休みに合わせて初のオンライン開催を実施。2019年に竣工した香西工場の様子をLIVE配信し、クレーン組立ラインの見学や社員インタビュー、クイズ、質問コーナーなどを通じて、建設機械やものづくりへの興味を深めていただく機会となった。



香西工場内をLIVE配信している様子

ESG = 「Environment, Social, Governance」 (環境・社会・ガバナンス)
SDGs = 「Sustainable Development Goals」 (国連にて全会一致で可決された地球環境や社会が将来的に持続可能であり続けるための17のゴール)

✓ BIMデータの提供を開始

当社グループ製建設用クレーンラインナップの一部のBIMデータを、BIMObject®プラットフォーム上に公開。BIMを利活用する設計事務所様や建設会社様等において、当社グループ製建設用クレーンを用いた施工計画を、より容易に行っていただくことが可能になる。



BIMモデルに当社製品を配置したイメージ

BIM = Building Information Modeling (ビルディング インフォメーション モデリング)
BIMObject® : スウェーデンのBIMObject ABが、世界規模で運用するBIMオブジェクトライブラリのプラットフォーム。BIM利用者等は、ユーザー登録を行えば無料でデータをダウンロードできる。

✓ 車両搭載型クレーン用スマートフォンアプリ「ゲンバデサポート」の提供を開始

エラーコードや音声メッセージの詳しい内容や現場での対処方法の検索、クレーンの取り扱い方法や当社指定サービス工場のマップ検索機能など、ご利用者様の現場作業をサポートする。また、夜間や休日の緊急時には「ハローサービス24」コールセンターがサポートする。



車両搭載型クレーン用スマートフォンアプリ「ゲンバデサポート」

✓ 日本市場向け超大型オールテレーンクレーン AR-7000N発売

7軸オールテレーンクレーンとして日本市場最大の700tの吊上げ能力を誇る。旧型の550t吊りオールテレーンクレーンと同等の寸法を維持しつつ、作業性能を大幅に向上。今後需要増加が見込まれる、老朽化したインフラの修理メンテナンス等で能力を発揮する。



✓ 北米市場向けラフテレーンクレーン GR-1300XL-4発売

コンパクトな2軸キャリアヤとしてクラス最大級となる130ショートトンの吊上げ能力と作業領域を有する。石油エネルギー関連だけでなく、風力工事関連のサポートクレーンとしても最適なクレーンである。このモデルにより当社の北米市場向け大型RTラインナップは盤石になり、更なるシェアアップを目指す。



✓ 通信工所用高所作業車 AT-121TTEをモデルチェンジ

5G早期普及に向けた、通信工事需要増加を見込んだモデルチェンジ。通信工所用高所作業車としてクラス最大の作業範囲や作業効率の向上、収納力アップをはじめとする利便性と作業快適性が向上。



✓ 海外向け車両搭載型クレーン TM-ZT1000 安全装置装備で進化

タイ工場生産機で最大クラスのTM-ZT1000(10t吊り)に安全装置を標準装備し、より安全なクレーン作業をサポート。



ラジコン仕様では、日本市場向け最新モデルと同じ大画面カラーデジタルラジコンを装備し、従来のラジコンに比べ視認性が大きく向上。



✓ 多様なニーズにおいてクローラクレーンが活躍

高まるクリーンエネルギー需要を背景に、風力関連工事をはじめ、TDG製のクローラクレーンが世界各地で活躍の場を広げている。日本市場においても、Demag事業買収後すでに大型のクローラクレーン納入が始まった。従来のタダノにはなかったクローラクレーンが製品ラインナップに加わったことで、お客様の幅広いニーズに応えていく。



大型プラント建設工事を行うCC 8800-1



風車を組み立てるCC 3800-1

✓ 新型7軸オールテレーンクレーン AC 450-7

新型7軸オールテレーンクレーンは、クラス最長級となる80mのブームを搭載する。また、6軸クレーンと同等のコンパクト性と8軸クレーンの力強さを兼ね備えている。

✓ 伸縮ブーム式クローラクレーン GTC-1800EX発売

当社製品ラインナップにおいて、最大吊上げ能力156tを誇る伸縮ブーム式クローラクレーン。搬送時のベースクレーン寸法は幅・高さそれぞれ3mと、高い搬送性を発揮する。TDG製でありながら、タダノブランドとして発売する初のクレーンとなる。



AC 450-7の正式発売は今年夏ごろ、日本市場への導入は来年以降を予定しております。



コロナ禍影響と今後の見通し

30

コロナ禍影響（需要）

【建設用クレーン地域別需要（対前年同期比）】

地 域	2020年				2021年
	1月-3月	4月-6月	7月-9月	10月-12月	1月-3月
日 本	-7%	-24%	-39%	+13%	-24%
中 東	-12%	-28%	-42%	-4%	-14%
北 米	-16%	-47%	-47%	-46%	-25%
欧 州	-9%	-23%	-7%	-24%	-15%
中南米	-15%	-34%	-44%	-12%	+24%
アジア	-1%	-26%	-43%	-21%	-15%
その他	-16%	+5%	-22%	-1%	+47%

第1四半期
 第2四半期
 第3四半期
 第4四半期

※上の表に中国およびクローラクレーンは含んでおりません

31

【地域別の足許の状況】

地 域	足許の状況
日 本	大型工事を中心に稼働は順調だが、一部コロナ影響による工事の延期なども発生。全体として商談は増加傾向。
米 国	バイデン政権による1.9兆ドルの経済対策や原油価格回復を背景にしたクレーン稼働上昇もあり、市場マインド回復の兆し。
欧 州	EUによる1.8兆ユーロの景気刺激策などで市場マインドは回復の兆し。域内のコロナ感染状況は国により乖離が大きく回復はまだら模様。
アジア	インフラプロジェクトに絡む需要増が期待されたインドネシア及びフィリピンにおいて、未だ感染拡大に歯止め掛からず、本格回復への兆しは見えない。
中 東	各国でのワクチン接種開始、原油価格の回復による資源関係大型プロジェクトの発表等から、需要回復を期待。
その他	豪州：経済対策プロジェクト及び天然資源価格上昇により稼働堅調。